

ひきこもり家族自助会とやま大地の会(設立 2001 年 3 月)

振込先 北陸労働金庫 富山南支店 普通 3414428 とやま大地の会

♪ ♪ 例会のおしらせ ♪ ♪



例会は、ミニ講演やグループでの分かち合いの場です。また個別相談会(希望者)も行っています。新型コロナ対策のため、実施について変更可能性もありますので、ご参加を希望される方は、本会のホームページでの確認をお願いします。

03 月 18 日 (第 3 土曜日) 第 265 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 601 号室
04 月 15 日 (第 3 土曜日) 第 266 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 601 号室
05 月 20 日 (第 3 土曜日) 第 267 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 601 号室
06 月 24 日 (第 4 土曜日) 第 268 回例会 13:30 富山市安住町サンシップとやま 701 号室

※6 月例会は従来の第 3 週の土曜日と違い、第 4 週土曜日の 24 日 13:30 から行います。

会費 正会員の 2021 年度からの年会費は 2,000 円。例会参加費無料。(振込料は各自負担です。) 非会員の方の、2021 年度からの例会参加費 200 円です。

サンシップでは駐車券を 2 階事務所にし、「大地の会」とおっしゃってください。無料になります。

サンフォルテでは駐車券を 1 階受付にし、「大地の会」とおっしゃってください。1 時間無料になります。

◎富山県ひきこもり地域支援センター、最寄りの厚生センター、保健所で相談をしましょう。適切な支援に繋がるよう力を借ります。

◎支援センターに希望すること、親に出来ることを常時募集しています。

◎ご相談があれば、大地の会のホームページからお問い合わせ下さい。

「とやま大地の会」のホームページですが、下記 URL で開設しています。ご覧ください。

<http://toyamadaichinokai.com/>



本会の各事業は、富山県、赤い羽根共同募金の助成を受けて実施しています。

♪ 2 月例会報告 ♪

日 時: 2 月 25 (土) 13:30~15:45 サンシップとやま 601 号室

参加者: 21 名 (男性 6 名 {内体験者 2 名}、女性 15 名 {内体験者 3 名}) のご参加がありました。

また、ワーカーズコープから 6 名参加いただき、計 27 名と盛況でした。

例会が始まる前には、保科さんのハーモニカ演奏にあわせ、皆さんマスクしながら小声で『うれしいひなまつり』『早春賦』『四季の歌』を歌いました。

I 運営委員会より

今回は第 4 土曜日、5 週間ぶりです。雪が舞い寒い中ご参加いただき有難うございます。先週、東京で JYC の全国交流会が開催され、当会から 4 名が参加しました。会場で、2017 年とやま大会に遠くから参加された方々と再会できました。たくさんの方から声をかけていただき、心がジーンとなり、温かい気持ちになりました。とやま大地の会が、コロナ禍でも、例会を一回も休まずに開催できたとお話ししましたら、皆さんびっくりしておられました。

あらためて、”集まって、顔を合わせ、言葉を交わす” ことの大切さと喜びを実感しました。

II 第 17 回 全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in 東京三多摩 (2023.2.18~2.19) 参加報告

Y さん

「さんたまフリンジ企画」のメンバーによる交流ライブ(音楽演奏)で、楽しくにぎやかなオープニングはうれしいおどろきでした。また、実行委員会を対面で行うことが難しく、各分科会の打ち合わせを含め、

リモートできめ細かく行ってきたと報告がありました。”苦勞して、開会にこぎつけたんだなあ！”という感慨の一言でした。

全体シンポジウムは阿比留久美氏（早稲田大学）の司会で、6名の若き登壇者が活発に討論されたことは、今回の大会を特徴づけたと感じています。大会の様子は、一緒に参加された3氏の報告に譲ります。

Nさん

シンポジウムでは、生きづらさを抱えつつ踏み出し歩んでいる人

仕事とは？を抱えて外見はひょうひょうと軽やかに居場所に集う子ども達のサポートをしている人など、各々の思い出の一部を聴きました。

サポートをする上で、失敗していいこと。失敗のあと検証してやり直しを考える。失敗を恐れずやりたいことをとにかくやる。成長の手伝いをしている気持ち、ベテランの方のお話でした。また人の目を気にせず働ける、強みを持たない自分が働ける踏み出せることを実感し、期待感を背負わずそれを降ろすことが出来たという言葉に聴き入りました。

分科会は農と若者～土にふれて共に育ちあう地域づくり～に参加しました。国立市社協の取り組みやNPO 法人グリーンガーラ代表と清水農園主から取り組みの現状をお聞きしました。農の可能性と仕組みは、コミュニティを活性化し、若者の自立や就労を支えていると感じました。

ひきこもる人を社会の中に引き入れるのではなく、その特性を尊重して、新たに立ち上げれば良いと話され自分の考えの狭さに気付かされました。身体を動かし、自然の一部に触れ、晴れやかな心で立てられる場所に息子が立てるように、親の出来ることは何……。

Sさん

私は一日目の午前の全体会と午後の分科会（ひきこもりつつ生きる）に参加しました。多くの若い人たちの参加もあり、大変活気ある大会でした。

しかし、「いきづらさ」が課題の個別支援（ひきこもりの現実・目の前の課題）の地域的な関係機関等の連携（ネットワークづくり）。その要の機関はなど具体的な報告があればもっと良かったと思いました。そこに東京圏など先進的な都会ではなく、ローカルとしての課題かなとも感じました。

Kさん

参加させて頂き色々な気づきがあった。3年ぶりのリアルでの開催となった事で、リモートとはまた違った良さを感じさせられた。JYC フォーラムの交流会へ何度か参加しているが今回が一番自分も参加している気分になった。一番の目的はシンポジウムや分科会はもちろんだが、新たな人との出会いを自分から積極的に作る事だった。そういう事で言うと今回の交流会に参加したことは非常に有意義であったと考えている。シンポジウムに関しては、若い人ならではの感性、考え等を聞いたのは良かった。

自分がそこに居るだけでもいいと思えたことが、今回の一番の収穫だと思うので、ここで感じたことを富山でも伝えていけたらと思う。

今までの仲間と再会出来、自分の中で少しずつではあるが前進している感じが改めて感じられて嬉しかった。また機会があったら、ぜひ参加したいと思った。今まで生きてきて良かったと改めて思える機会になった。

Ⅲ ミニ講演

労働者協同組合ワーカーズコープ 『協同労働という働き方』

講師 北陸信越事業本部事務局長 関野智史さん

講演概要

① 労働者協同組合と働き方について

労働者協同組合法が、2022年10月法制行されました。このしくみは働く人や市民が出資し経営に参加し、仕事を自分達でつくるものです。

株式会社の場合は、企業の命令・指示のもと労働者が働きますが、協同労働の場合は、一人一人が対等な立場で、みんなで事業を考え、出資金をみんなを出し合い、みんなで働く仕事のやり方を進めてきた活動です。

② 富山県内に5つの事業所があります。主な業務内容は、高齢者ディサービス・訪問介護・清掃などです。給料等、自分達で経営を考えて話合って決めています。

③ ワーカーズコープ事業の例

富山北部事業所ですが、地域若者サポートステーションなどと連携で、積極的にひきこもり状態にあった若者を受け入れてきました。出来ない事を求めるのではなく、やれることからお互いの強みを探しながら働きやすい職場づくりを進めています。現在の主な事業内容は施設清掃や病院関係の委託業務です。

④ ひきこもり体験者の方について

障害者手帳のない方も就業が可能です。勤務時間は少し短いようです。障害者手帳のある方もいらっしやいます。

感想や質問など

・介護職員の方の皆様が、どのような発想でワーカーズコープに到ったのか、障害者の就労継続支援 A 型事業所や B 型事業所に通う人々の支援から発想されたのか。⇒どのような障害者も事業所内で同じ仕事をしている人が多い。

・皆、障害があっても、それぞれ個性があり、持ち味を持っている。持ち味や才能を生かして仕事をしてもらうこと、その可能性からワーカーズコープを立ち上げられたのか。

・久遠チョコレート創始者の話から感じました。ひきこもっている人も、才能があるのに外に出ることができない人が多い。家族としたらひきこもっている当事者に、少しでも外と関係して欲しいと思っている。そういう人やお金がない人がワーカーズコープで働けるのでしょうか。

⇒ 組織は全員がフラットで、業務は普通の作業所と同じです。

・ポピー食堂の場所はどこでしょうか。

⇒ 富山市山田の山田事業所は、公民館そばの古民家です。

IV 話し合い 班分けしワーカーズコープの方と、また会員でのいつもの話し合いをしました

A班（10名）

ワーカーズコープの方5名に、全体会の説明に関心を持たれた方々から質問が寄せられ、追加説明がありました。また、ワーカーズコープに加わったご自身の思いなど貴重なお話しを聞くことができました。

質問内容は、NPO法人、一般社団法人との違い、青年の加入率などです。また、関野事務局長さんから、富山市が厚生労働省から指定を受けて取り組む「重層的支援体制整備事業」を受託している3つの法人のひとつであると追加説明がありました。

重層的支援体制整備事業は、他県の受託自治体の説明文では、「**重層的支援体制整備事業とは地域共生社会の実現に向けて、区市町村が取り組む事業（社会福祉法第106条の4）、**

具体的には次の3つを一体的に行う。

I 相談支援（まずは相談を断らない）

II 参加支援（社会とのつながりを段階的に回復する支援）

III 地域づくり（地域での交流の場などの整備に関する後方支援）」

と、説明されました。I～IIIとも「ひきこもり対策」も含まれます。



B班（10名、内体験者3名）

・10年程前に出会い、話を聞いてくれていた人が県外に行った。寂しい。

・先月の例会終了後、息子が来た。運営委員2名（うち体験者1名）と話をした。社会の繋がりが出来て感謝している。

⇒親以外の社会の人と繋がるは大事。欲張ってしまうけど、そこまで我慢する。

・私は私、あの子はあの子の世界で親目線ではなく、一人の人としてみる。

・部屋にいる息子が静かすぎると不安になる

・自分が自分らしく、親の心も大切。親自身が気晴らしも必要。

・体が痛い、体が動かんと娘が言うようになった。夜、暗闇で独りぼっちが怖いという。

⇒体験者）夜、ぐったり動けなくなる時は今もある。昔、金縛りになる事もあった。

・体験者）A型事業所にも色んな人がいる。人それぞれ悩むこともある。一人で暮らしている友人が相談してくれると嬉しい。

・息子が大地の会に参加している当事者と繋がる事が出来て、時々電話しているので嬉しい。

・娘は月1～2回の通院は行けている。遅くても朝9時には起きている。

C班（6名、内体験者1名）

- ・自分（母）は昔人間か、息子が働かなければと思ってしまう。ピント外れかもしれないが。
⇒（体験者）親にしたら働いて欲しいと思います。
- ・この会に参加するのは、傾聴の他、ヒントを求めているのでは。
⇒ アドバイスも求めています。
- ・県のひきこもり地域支援センターの親の会（月1回第2木曜日開催）に参加した。子にはどういう関わり方が良いか質問しました。
質問への返答は、「子との距離感、自分の子どもでも友か親戚の子と思って話す」、「（子は）一人の大人として距離感を持って関わる。
タブーは、「就労・友達の話」、「日常の会話・あいさつ“おはよう”などを言いましょう」でした。
- ・子が昨年秋のある日から、突然に動き出し、働き出しました。父子のやりとりが本人から出て来ました。双方のキャッチボールが数多くなって来て、私は聞き役になっています。
- ・家族の人間関係、本人と父の関係それぞれが違う。「そうなんだ」、「そう思っているんだ」、「そうだね・そうしたら良いね・そうならいいね」など、子とは共感共有を保っています。
- ・子とは普段の会話がありません。ところが本人の保険改正時、本人でないと手続きが出来なかったことから、本人が出て話し出しました。それが良かったです。



V その他

- 1 例会では、なかなか十分に自分の話が出来ない。言い足りないことなど日常のあゆみなど体験発表を試みませんか？約 20 分間程度を予定しています。
- 2 投稿欄について
会員の皆様から、“ひきこもりの理解”に関する本の紹介や講演の感想等、募集しています。

富山県ひきこもり地域支援センター からのお知らせ

相談時間：月曜日～金曜日 8:30～12:00、13:00～17:00（要予約）

グループ相談を実施しています。

- ・本人グループ 毎週火曜日 10:00～12:00
- ・親グループ 毎月第2木曜日 14:00～16:00

まずはお電話でご相談ください。電話：076-428-0616

場所：富山県心の健康センター内 〒939-8222 富山市蜷川 459-1

VI 高岡つくしの会より（2003年設立）

市内2カ所で開催し、今はコロナ感染予防を徹底の上、主に話し合い中心の月例会と定例会を行っています。気候やコロナ関係などで、予定変更の場合もありますが、ご了承下さい。

月例会 3月12日（日）、4月16日（日）：13:00～16:00 高岡市博労公民館

おとぎの森定例会 3月8日（水）、3月25日（土）：14:00～16:00：高岡おとぎの森公園 森のふれあい館

VII 書籍他の紹介 『孤独と居場所の社会学 なんでもない“わたし”で生きるには』

阿比留久美 2022.11 大和書房

著者は、教育学を専門とする若き研究者（早稲田大学准教授）です。第17回 全国若者・ひきこもり協同実践交流会 in 東京三多摩で、オープニングの全体会シンポジウム、「若者の語りから見える社会、そして地域」の企画・司会を務めました。発言に感心し、購入した一冊です。

本の冒頭、

”自由に生きていい。生き方は多様であっていい。そんな言葉はよく耳にするけれど、わたしたちはこんなにも 不安で、生きづらい。「ふつう」に生きたいだけなのにそんなことすらおぼつかない。

どれくらいがんばったら不安や孤独はなくなるんだろう。もっと息がしやすくして「なんでもない自分」のままにいられるようなそんな「居場所」を手にしにいこう。”と、著者は呼びかけます。

